

『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集

——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り
「地球人」の連帯を模索する】公募趣意書

出版内容 = 「故郷」と「異郷」の対立の根底にある「原故郷」に立ち
ち還り、「対話」から「平和」と「連帯」を、「地球

人」の観点から詩歌を通して試みて欲しい。

A5判 約三〇〇×三五〇頁 本体価格二〇〇〇円+税

発行日 = 二〇二六年八月発行予定

編著者 = 鈴木比佐雄、座馬寛彦、鈴木光影、羽島貝

発行所 = 株式会社コールサック社

募 = 二五〇名の詩・短歌・俳句・エッセイを公募します。作品と承諾書をお送り下さい。既発表・未発表を問いません。

句・エッセイ一、〇〇〇字で一万円、二冊配布。二頁は倍の作品数や文字数で二万円、四冊配布。校正紙が能です。<http://www.coal-sack.com/>

届きましたら、コールサック社の振替用紙でお振込みをお願い致します。

しめきり = 二〇二六年五月末(著者校正一回あり)

原稿送付先 = 〒一七三一〇〇〇四 東京都板橋区板橋二一六三一四二〇九

データ原稿の方 = <m.suzuki@coal-sack.com> (鈴木光影)

までメール送信お願いします。

【よびかけ文】科学技術の発達によつて人間の「生活世界」は過度の欲望の刺激を受け、他の地球の生きもののたちの生活圏や生態系を破壊し続けて、気候変動という形で地球の危機を誰もが感ずる時代状況になつてゐる。人類はどうしたら他の生きのたちと共に生する「地球人」になれるのだろうか。今から九十年ほど前の一九三四年に、現象学を提唱し二十世紀の哲学に大きな影響を与えたフッサールは、ナチスが政権を握りナシヨナリズムを煽り、周囲の「異郷」である他国を侵略しようとする状況下の中で、ユダヤ人であるゆえに大学を追われた。その最中に「ウイーン講演」や論文『「ペルニクス説の転覆』の中で、身体と大地の関係を問い合わせながらも自國中心主義である故郷世界(Heimwelt)と異郷世界(Fremdwelt)の対立によつて繰り返されている悲劇を回避するため、その根底に「原初的故郷」や「原故郷」(Urheimat)があることを指摘した。私はカントの「永遠平和」とフッサールの「原故郷」という考えは「ヨーロッパ」に限定しなければ、和平を「生成」していく觀点からとても類縁性があり、今日的に人類の課題を言い当てると思われる。そして未だに「連帯」を「生成」させていく理念や概念になりうるのではないか。宮沢賢治『春と修羅』第二集の中にトシの死を冷静に受け止め

『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り「地球人」の連帯を模索する』参加・収録承諾書

応募する作品の題名

氏名(筆名)

読み仮名

生年(西暦)

年

生まれた都道府県名	
-----------	--

以上の略歴と同封の詩・短歌・俳句・エッセイにて、『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り「地球人」の連帯を模索する』に参加・収録することを承諾します。

『故郷と異郷の対話・連帯詩歌集——大地の基底にある「原故郷」に立ち還り「地球人」の連帯を模索する』に参加・収録することを承諾します。

①「故郷」が「異郷」から影響を与えられた影響を与えていた相互の実例。②人間の経済活動に起因して「故郷」の自然の生態系がいかに変容しつつあるか。③「故郷」と「異郷」が「対話」を通して「連帯」を模索する試み。④東日本大震災・東電福島第一原発事故から十五年の「故郷」の変容。⑤熊本地震・能登半島地震などの被災経験を語り継ぐ。⑥原発の再稼働、新規原発建設、原潜の建造、核融合などは経済優先で問題があるのでないかという問い合わせなど。(鈴木比佐雄 記)

——キリストリ線(参加詩篇と共に)郵送ください。データ原稿をお持ちの方は<m.suzuki@coal-sack.com>までメール送信お願いします。

所属誌・団体名(計)一つまでとさせていただきます

TEL()

〒()

現住所(郵便番号・都道府県名からお願いします)※

代表著書(計)一冊までとさせていただきます

印